

(5) 調査結果

1) 哺乳類

ア. 確認種

事後調査において確認された哺乳類は、表6.3-4に示す4目7科9種である。

表6.3-4 確認種一覧（哺乳類）

目名	科名	種名	学名	評価書	事後調査			
					秋季	冬季	春季	夏季
モグラ（食虫）	モグラ	アズマモグラ	<i>Mogera imaizumii</i>	○	○	○		○
コウモリ（翼手）	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科1※1	Vespertilionidae sp.1	○	○		○	○
		ヒナコウモリ科2※2	Vespertilionidae sp.2	○	○		○	○
ネズミ（齧歯）	ネズミ	アカネズミ	<i>Apodemus speciosus</i>	○	○			○
		ハツカネズミ	<i>Mus musculus</i>	○				
ネコ（食肉）	アライグマ	アライグマ	<i>Procyon lotor</i>		○			
	イヌ	タヌキ	<i>Nyctereutes procyonoides</i>	○	○	○	○	○
		キツネ	<i>Vulpes vulpes</i>	○		○	○	○
	イタチ	イタチ	<i>Mustela itatsi</i>	○	○	○	○	○
ジャコウネコ	ハクビシン	<i>Paguma larvata</i>					○	
4目	7科	10種	-	4目5科8種	7種	4種	5種	8種
					4目7科9種			

※1 ヒナコウモリ科1は、確認した周波数（20-25kHz）やバットディテクターの入感音、分布情報等より、ヤマコウモリまたはヒナコウモリの可能性が高い。

※2 ヒナコウモリ科2は、確認した周波数（40-45kHz）やバットディテクターの入感音、分布情報等より、モモジロコウモリまたはアブラコウモリの可能性が高い。ヒナコウモリ科1とヒナコウモリ科2は別種である可能性が高いので、種数の合計に計上した。

注) 種名は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省，2021年）に準拠した。

イ. 注目すべき種の分布、生息環境、個体数等

現地調査（評価書及び事後調査）で確認した種を対象に、表6.3-2に示した選定基準に該当する種を注目すべき種として選定した。事後調査時に注目すべき種として選定されたのは表6.3-5に示す2種であった。その確認状況及び一般生態は表6.3-6(1)～(2)に、確認位置は図6.3-8に示すとおりである。また、評価書時の注目すべき種の確認位置は、図6.3-7に示すとおりである。

表6.3-5 注目すべき種（哺乳類）

目名	科名	種名	選定基準					確認位置			
								評価書		事後調査	
			I	II	III	IV	V	事業区域		事業区域	
				内	外	内	外				
コウモリ（翼手）	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科1※1									
		（ヤマコウモリ）			VU	VU	1,4	○	○		○
		（ヒナコウモリ）				VU	1,4				
		ヒナコウモリ科2※2						○	○	○	○
		（モモジロコウモリ）					1,4				
（アブラコウモリ）											
1目	1科	2種	0種	0種	1種	1種	2種	2種	2種	1種	2種

※1 ヒナコウモリ科1は、確認した周波数（20-25kHz）やバットディテクターの入感音、分布情報等より、ヤマコウモリまたはヒナコウモリの可能性が高い。

※2 ヒナコウモリ科2は、確認した周波数（40-45kHz）やバットディテクターの入感音、分布情報等より、モモジロコウモリまたはアブラコウモリの可能性が高い。ヒナコウモリ科1とヒナコウモリ科2は別種である可能性が高いので、種数の合計に計上した。

注) 種名は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度生物リスト」（河川環境データベース 国土交通省，2021年）に準拠した。

表6.3-6(1) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（ヒナコウモリ科1）

種名	ヒナコウモリ科1	
確認状況	秋季	事業区域外の1地点において確認された。
	冬季	確認されなかった。
	春季	事業区域外の1地点において確認された。
	夏季	事業区域外の1地点において確認された。
一般生態	ヤマコウモリ、ヒナコウモリのいずれも北海道、本州、四国、九州などに分布する。ヤマコウモリは樹洞を、ヒナコウモリは樹洞のほか家屋や海蝕洞などもねぐらとして利用する。いずれの種も夕方からねぐらから飛び出し、飛翔する昆虫類を捕食する。昆虫類が飛翔しない冬季には冬眠する。出産・哺育は、雌だけの集団で初夏に1～2仔出産する。	

出典：「日本の哺乳類[改訂2版]」（東海大学出版会，2008年）

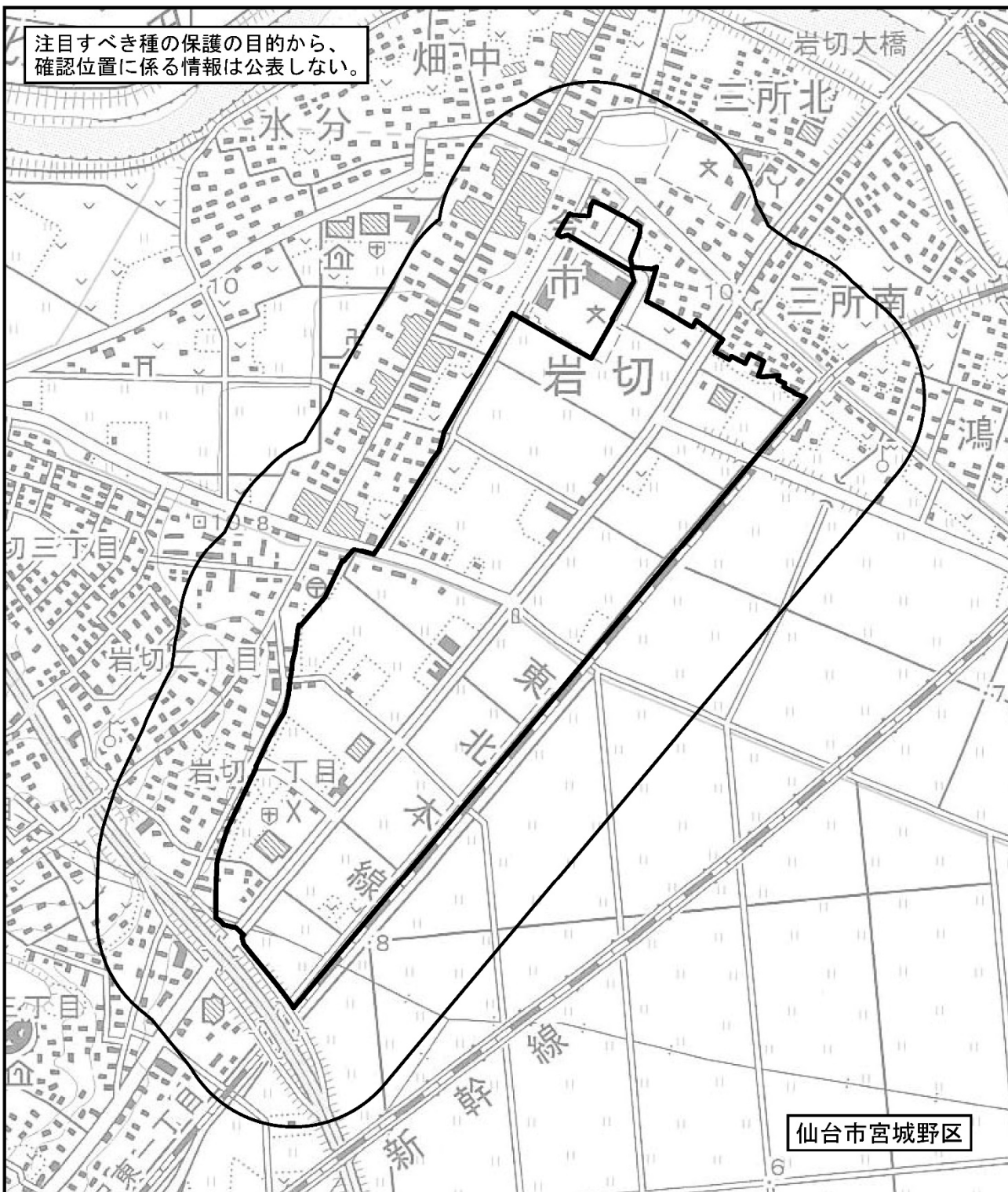
表6.3-6(2) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（ヒナコウモリ科2）

種名	ヒナコウモリ科2	
確認状況	秋季	事業区域内の1地点、事業区域外の1地点の計2地点において確認された。
	冬季	確認されなかった。
	春季	事業区域外の1地点において確認された。
	夏季	事業区域内の3地点、事業区域外の4地点の計7地点において確認された。
一般生態	モモジロコウモリ、アブラコウモリのいずれも北海道、本州、四国、九州などに分布する。モモジロコウモリは洞穴などをねぐらにして、河川、丘陵地、森林で採餌を行う。アブラコウモリは家屋をねぐらとするため、山間部や森林内など家屋のない場所には生息しない。いずれの種も秋に交尾を行い、翌夏出産する。	

出典：「日本動物大百科 第1巻 哺乳類 I」（平凡社，1996年）

「日本の哺乳類[改訂2版]」（東海大学出版会，2008年）

注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない。



仙台市宮城野区

凡例



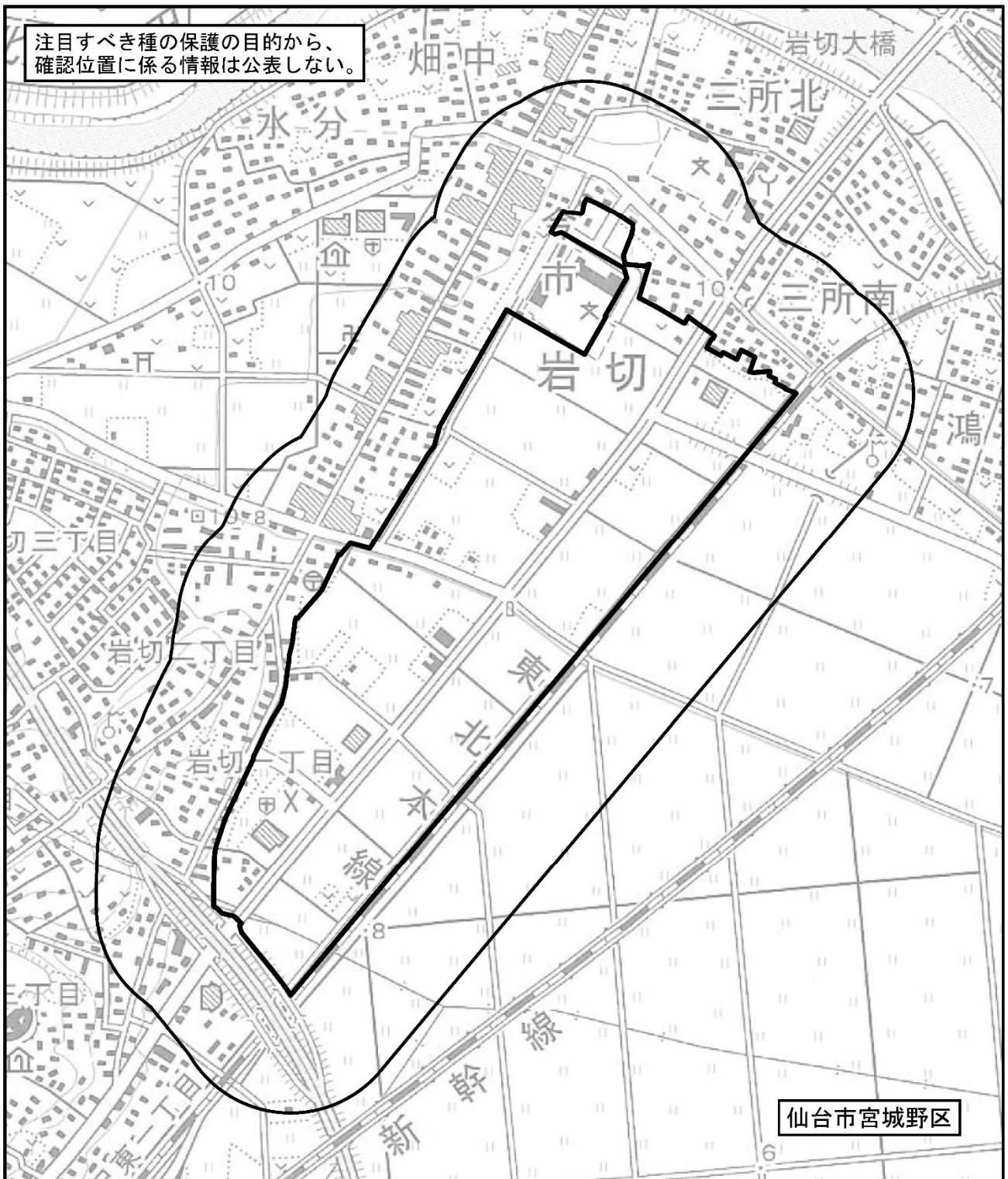
-  事業予定区域
-  調査地域
(事業予定区域から200mの範囲)

図6.3-7 注目すべき種確認位置(哺乳類) (評価書)

S=1/10,000
0 100 200 300 400 500m



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない。



仙台市宮城野区

凡例



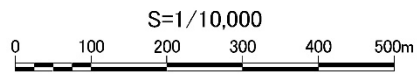
-  事業区域
-  調査地域
(事業区域から200mの範囲)

図6.3-8 注目すべき種確認位置(哺乳類)(事後調査)



2) 鳥類

ア. 確認種

事後調査において確認された鳥類は、表6.3-7に示すとおり9目24科44種である。

表6.3-7(1) 確認種一覧(鳥類)

目名	科名	種名	学名	評価書	事後調査			
					秋季	冬季	春季	夏季
キジ	キジ	キジ	<i>Phasianus colchicus</i>	○	○		○	
カモ	カモ	マガン	<i>Anser albifrons</i>			○		
		コハクチョウ	<i>Cygnus columbianus</i>			○		
		オオハクチョウ	<i>Cygnus cygnus</i>	○		○		
		カルガモ	<i>Anas zonorhyncha</i>	○	○		○	○
		オナガガモ	<i>Anas acuta</i>	○				
ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	○	○	○	○	○
		カワラバト	<i>Columba livia</i>	○	○	○	○	○
ペリカン	サギ	ゴイサギ	<i>Nycticorax nycticorax</i>	○				
		アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○	○			○
		ダイサギ	<i>Ardea alba</i>	○	○		○	○
		チュウサギ	<i>Egretta intermedia</i>	○				
		コサギ	<i>Egretta garzetta</i>	○	○			
チドリ	チドリ	コチドリ	<i>Charadrius dubius</i>	○			○	○
	シギ	オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	○				
		イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○				
タカ	ミサゴ	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>	○				
	タカ	トビ	<i>Milvus migrans</i>	○	○	○	○	○
		ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>			○		
		ノスリ	<i>Buteo buteo</i>	○		○		○
キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>		○		○	
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ	<i>Falco tinnunculus</i>	○		○		○
		ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	○		○		
スズメ	モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	○	○	○	○	○
	カラス	オナガ	<i>Cyanopica cyanus</i>	○				○
		コクマルガラス	<i>Corvus dauuricus</i>			○		
		ミヤマガラス	<i>Corvus frugilegus</i>			○		
		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	○	○	○	○	○
		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	○	○	○	○	○
	シジュウカラ	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	○	○	○		○
	ヒバリ	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i>	○	○	○	○	○
	ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>	○			○	○
		イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>	○			○	
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	○	○	○		○
	ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>	○	○		○	○
	メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>		○			○
	ヨシキリ	オオヨシキリ	<i>Acrocephalus orientalis</i>	○			○	○

表6.3-7(2) 確認種一覧（鳥類）

目名	科名	種名	学名	評価書	事後調査			
					秋季	冬季	春季	夏季
スズメ	セッカ	セッカ	<i>Cisticola juncidis</i>					○
	ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>	○	○	○	○	○
	ヒタキ	ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>	○		○		
		イソヒヨドリ	<i>Monticola solitarius</i>	○				
	スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○	○	○	○	○
	セキレイ	ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>	○	○	○	○	○
		セグロセキレイ	<i>Motacilla grandis</i>	○				○
		タヒバリ	<i>Anthus rubescens</i>	○		○		
	アトリ	アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>		○			
		カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>	○	○	○	○	○
		ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	○		○		
		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	○	○			
	ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	○	○	○	○	○
カシラダカ		<i>Emberiza rustica</i>	○	○	○			
アオジ		<i>Emberiza spodocephala</i>	○					
9目	26科	52種	-	8目23科	25種	27種	20種	28種
				43種	9目24科44種			

注) 種名は、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会, 2012年）に準拠した。

イ. 注目すべき種の分布、生息環境、個体数等

現地調査（評価書及び事後調査）で確認した種を対象に、表6.3-2に示した選定基準に該当する種を注目すべき種として選定した。事後調査時に注目すべき種として選定されたのは表6.3-8に示す10種であった。その確認状況及び一般生態は表6.3-9(1)～(10)に、確認位置は図6.3-10に示すとおりである。また、評価書時の注目すべき種の確認位置は、図6.3-9に示すとおりである。

なお、表6.3-8において、事業区域内外の両方を飛翔通過した個体については、事業区域内外の両方で確認したものとした。

表6.3-8 注目すべき種（鳥類）

目名	科名	種名	選定基準					確認位置			
								評価書		事後調査	
			I	II	III	IV	V	事業区域		事業区域	
						内	外	内	外		
カモ	カモ	マガン	天		NT		1,4			○	○
ペリカン	サギ	チュウサギ			NT		1,2,4	○	○		
		コサギ			NT				○*	○	
チドリ	シギ	オオジシギ			NT	NT	1,4		○		
タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT		1,4	○	○		
	タカ	ハイタカ			NT	NT	1,4			○	○
ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ					1,4		○	○	○
		ハヤブサ		国内	VU	NT	1,4	○	○	○	○
スズメ	モズ	モズ					1	○	○	○	○
	ウグイス	ウグイス					1,4	○		○	○
	ヨシキリ	オオヨシキリ					1,4		○		○
	セッカ	セッカ					1,4				○
	セキレイ	セグロセキレイ					4	○			○
6目	11科	13種	1種	1種	6種	4種	12種	6種	8種	7種	8種

※ 評価書時の選定基準IVには該当しなかったため、評価書時は注目すべき種として扱わなかった。

注) 種名は、「日本鳥類目録 改訂第7版」（日本鳥学会, 2012年）に準拠した。

表6.3-9(1) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（マガン）

種名	マガン	
確認状況	秋季	確認されなかった。
	冬季	事業区域内外の上空を飛翔する計47個体、事業区域外の上空を飛翔する2個体が確認された。
	春季	確認されなかった。
	夏季	確認されなかった。
一般生態	日本には冬鳥として本州に渡来するが、越冬地の分布は局地的。東北地方北部以北では旅鳥。東北地方南部より南の太平洋側ではまれ。越冬地では湖沼などの水辺の浅い場所をねぐらとする。早朝に群れて飛び立ち、ねぐらから採食場の水田に飛んでいく。植物食で、草の葉、茎、地下茎、根茎、種子、果実などを食べる。	

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>」（保育社，1995年）

「山溪ハンディ図鑑7新版日本の野鳥」（山と溪谷社，2014年）

表6.3-9(2) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（コサギ）

種名	コサギ	
確認状況	秋季	事業区域内の1地点において1個体が確認された。
	冬季	確認されなかった。
	春季	確認されなかった。
	夏季	確認されなかった。
一般生態	留鳥または漂鳥として本州以南に分布する。ほかのサギ類と一緒にマツ林、雑木林などの樹上で集団繁殖することが多い。河川や水田、湖沼、池、湿地、河口、干潟、海岸などに生息し、主に魚類を食べるほか、ザリガニやカエル、昆虫類などもとる。	

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>」（保育社，1995年）

「山溪ハンディ図鑑7新版日本の野鳥」（山と溪谷社，2014年）

表6.3-9(3) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（ハイタカ）

種名	ハイタカ	
確認状況	秋季	確認されなかった。
	冬季	事業区域内外の上空を飛翔する1個体が確認された。
	春季	確認されなかった。
	夏季	確認されなかった。
一般生態	日本では本州以北で繁殖する留鳥、冬には少数が暖地に移動する。平地から亜高山帯の林に生息する。営巣林として選ばれるのは、立木密度の高い、構造的に林内空間の閉じた若齢林である。巣は高木の樹冠部に架けられ、通常は毎年新しい場所に造られる。他のタカ科と異なり、樹皮などを産座に敷き、青葉を入れることは少ない。林内、林縁、農耕地や草地などで主にツグミ位までの鳥類を捕食するが、ネズミやリス、ヒミズなどの哺乳類や昆虫類を捕まえることもある。	

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」（保育社，1995年）

「図鑑日本のワシタカ類」（文一総合出版，1995年）

「山溪ハンディ図鑑7新版日本の野鳥」（山と溪谷社，2014年）

表6.3-9(4) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（チョウゲンボウ）

種名	チョウゲンボウ	
確認状況	秋季	確認されなかった。
	冬季	事業区域内外の上空を飛翔する1個体、事業区域外の上空を飛翔する1個体が確認された。
	春季	確認されなかった。
	夏季	事業区域内外の上空を飛翔する1個体が確認された。
一般生態	北海道、東北地方から中部地方にかけての本州で繁殖しているが北海道では少ない。冬には各地の農耕地、湿地、原野、河原、埋立地で見られる。農耕地や草地、湿地、広い河原などが近くにある崖や林で繁殖するが、近年街中での繁殖が多く知られるようになった。主な餌はネズミ類であるが、鳥類やカエル、トカゲ、昆虫類など捕れる獲物は何でも捕って食べる。	

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」（保育社，1995年）

「図鑑日本のワシタカ類」（文一総合出版，1995年）

「山溪ハンディ図鑑7新版日本の野鳥」（山と溪谷社，2014年）

表6.3-9(5) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（ハヤブサ）

種名	ハヤブサ	
確認状況	秋季	確認されなかった。
	冬季	事業区域外の上空を飛翔する1個体が確認された。
	春季	確認されなかった。
	夏季	確認されなかった。
一般生態	日本では、北海道から九州北西部の島嶼（とうしょ）に至るまで広く分布し、特に東北地方と北海道の沿岸部に多い。多くは留鳥として生息するが、一部暖地の海岸や平野部に移動する個体もいる。海岸や海岸に近い山の断崖や急斜面、広大な水面のある地域や広い草原、原野などを生活域にする。営巣地は海岸や海岸に近い山地の断崖の岩棚で、繁殖に適した岩棚が無い場合には、岩礁の頂上や岬先端部の草地や砂地の上に産卵する例もある。近年、都市に進出しており、建造物で営巣しているものもいる。餌はほとんどがヒヨドリ級の中型の小鳥で、まれに地上でネズミやウサギを捕まえる。崖の上や、見晴らしの良い木や杭などの止まり場所から空間を見張り、鳥が飛んでいるのを見つけると飛び立ち、獲物より高い位置に待機して、飛翔中の鳥の上空から翼をすばめて急降下して足で蹴落とす。単独狩猟と共同狩猟がある。	

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」（保育社，1995年）

「図鑑日本のワシタカ類」（文一総合出版，1995年）

「山溪ハンディ図鑑7新版日本の野鳥」（山と溪谷社，2014年）

表6.3-9(6) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（モズ）

種名	モズ	
確認状況	秋季	事業区域内の2地点において計2個体、事業区域外の5地点において計5個体が確認された。
	冬季	事業区域内の2地点において計2個体が確認された。
	春季	事業区域内の2地点において計2個体が確認された。
	夏季	事業区域外の1地点において1個体が確認された。
一般生態	日本には留鳥として全国各地に生息する。集落や農耕地の周辺、河原、自然公園、高原、林縁などに広く生息し、低木のある開けた環境であれば繁殖する。低木や藪の中に小枝や枯草などを用いて、椀型の巣をつくる。主に、昆虫やミミズ、両生類、爬虫類、鳥類、小型の哺乳類などを食べる。冬にはハゼ、サンショウ、マサキなどの実を食べることも知られる。秋から冬にかけて、捕らえた獲物を鉄条網や木の刺、小枝にくし刺しにする、はやにえの習性がある。	

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」（保育社，1995年）

「山溪ハンディ図鑑7新版日本の野鳥」（山と溪谷社，2014年）

表6.3-9(7) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（ウグイス）

種名	ウグイス	
確認状況	秋季	事業区域内の1地点において1個体、事業区域外の3地点において3個体が確認された。
	冬季	確認されなかった。
	春季	事業区域外の1地点において1個体が確認された。
	夏季	事業区域内の2地点において2個体が確認された。
一般生態	留鳥として全国に生息し、一部の地域では漂鳥として分布する。平地から山地、ササ類や低木林、公園や高原に生息する。ツゲやササなどの枝に植物の葉を使用して球形の巣をつくる。藪の中を移動しながら昆虫を食べる。冬にはカキなどの果実も食べる。	

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」（保育社，1995年）

「山溪ハンディ図鑑7新版日本の野鳥」（山と溪谷社，2014年）

表6.3-9(8) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（オオヨシキリ）

種名	オオヨシキリ	
確認状況	秋季	確認されなかった。
	冬季	確認されなかった。
	春季	事業区域外の1地点において1個体が確認された。
	夏季	事業区域外の1地点において1個体が確認された。
一般生態	日本には夏鳥として北海道北部、東部と沖縄を除く全国に渡来する。水辺のヨシ原に生息し、海岸や河口などの低地の湿原や山地の湖岸、川岸の湿地で普通に繁殖する。竹林で繁殖する地方もある。繁殖期は5～8月、年に1～2回繁殖するが本州中部以北では年に1回の繁殖が普通。ヨシの茎にイネ科の葉や茎を用いて椀形の巣をつくる。昆虫類やクモ類、草木の実などを餌とする。雛の餌には鱗翅類の幼虫とクモ類が多く、双翅類や直翅類、鱗翅類の成虫、マイマイなども与える。	

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>」（保育社，1995年）

「山溪ハンディ図鑑7新版日本の野鳥」（山と溪谷社，2014年）

表6.3-9(9) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（セッカ）

種名	セッカ	
確認状況	秋季	確認されなかった。
	冬季	確認されなかった。
	春季	確認されなかった。
	夏季	事業区域外の1地点において1個体が確認された。
一般生態	留鳥または漂鳥として本州以南の平地の草原、河川、農耕地、牧草地などに生息し、やや丈が低いイネ科が茂る草原を好む。地上から約15～60cmの高さにイネ科植物の葉とチガヤの花穂で白いコップ状の巣をつくる。植物の茎を移動しながら、昆虫類やクモ類を食べる。	

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<陸鳥編>」（保育社，1995年）

「山溪ハンディ図鑑7新版日本の野鳥」（山と溪谷社，2014年）

「日本の野鳥590」（平凡社，2000年）

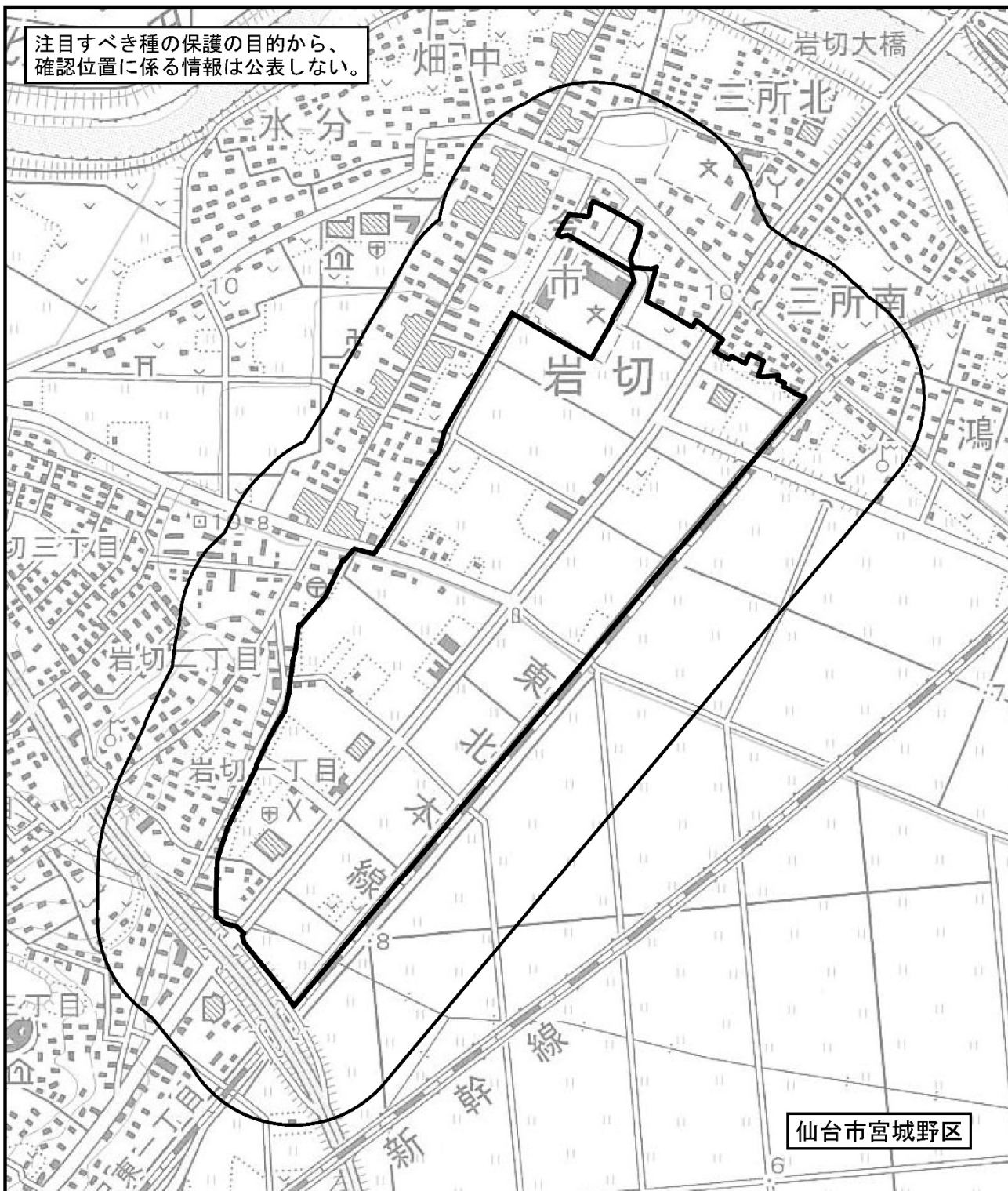
表6.3-9(10) 注目すべき種の確認状況及び一般生態（セグロセキレイ）

種名	セグロセキレイ	
確認状況	秋季	確認されなかった。
	冬季	確認されなかった。
	春季	確認されなかった。
	夏季	事業区域外の1地点において1個体が確認された。
一般生態	日本固有種で、北海道、本州、四国、九州に分布し、平地から山地の河川、湖沼、農耕地、川の近くの市街地などに生息する。尾羽を上下に振りながら水辺を歩き、トビケラ類やカワゲラ類などの昆虫類を捕食する。フライングキャッチにより捕食もする。巣は河原の土手の窪み、河原の石や流木の下、人家の石垣や屋根、河原の隙間などに、枯れ草や獣毛、綿クズなどを使って椀形の巣をつくる。集団でねぐらを形成するが、ハクセキレイのような大集団にはならず、数羽から十数羽が樹木や建物の軒下などで眠る。中にはハクセキレイのねぐらに入る個体もいる。	

出典：「原色日本野鳥生態図鑑<水鳥編>」（保育社，1995年）

「山溪ハンディ図鑑7新版日本の野鳥」（山と溪谷社，2014年）

注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない。



凡例



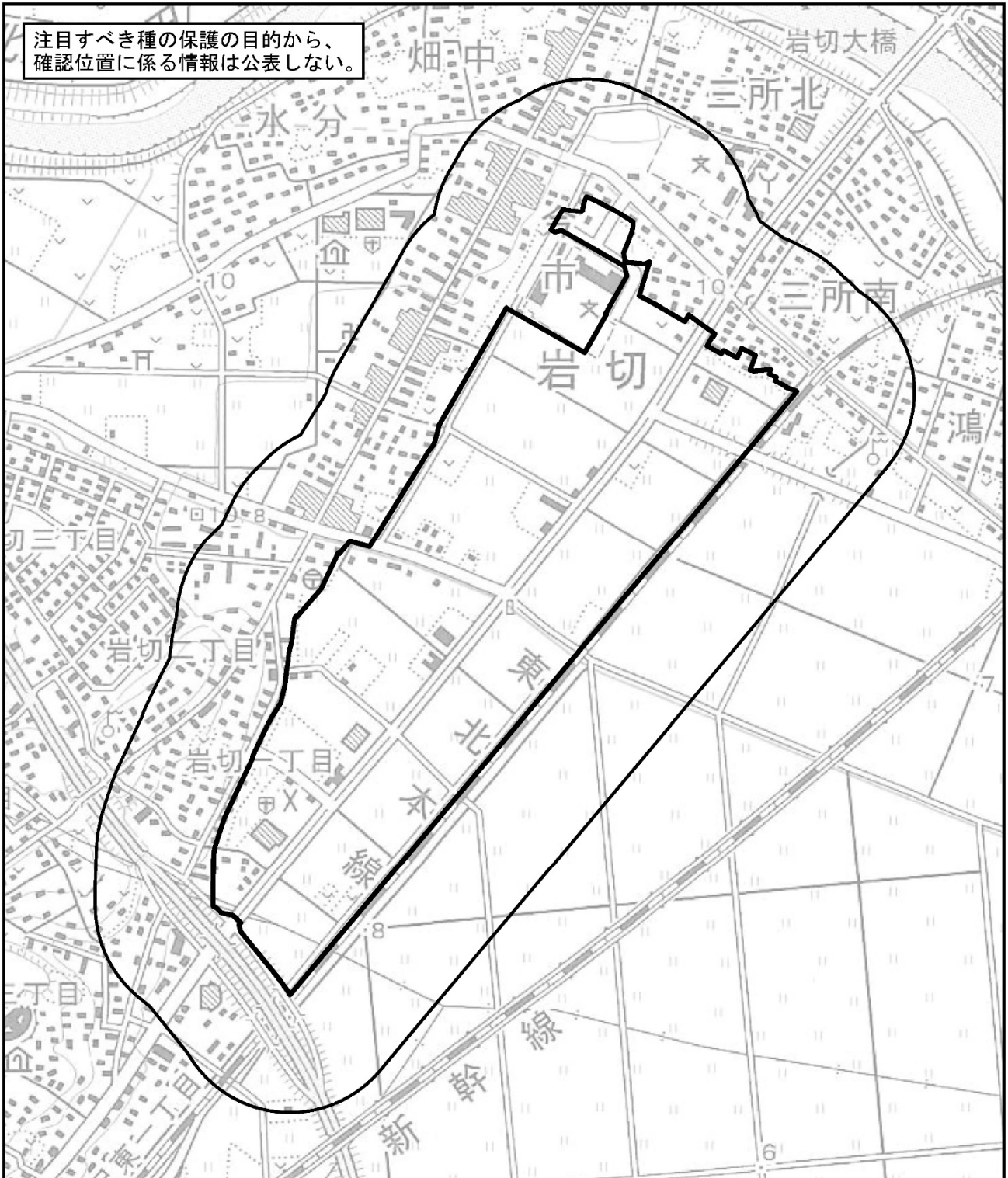
-  事業予定区域
-  調査地域
(事業予定区域から200mの範囲)

図6.3-9 注目すべき種確認位置(鳥類) (評価書)

S=1/10,000
0 100 200 300 400 500m



注目すべき種の保護の目的から、
確認位置に係る情報は公表しない。



凡例



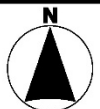
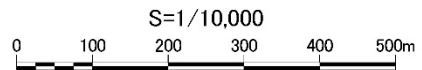
-  事業区域
-  調査地域
(事業区域から200mの範囲)

図6.3-10 注目すべき種確認位置(鳥類)(事後調査)



3) 両生類

ア. 確認種

事後調査において確認された両生類は、表6.3-10に示すとおり1目2科2種である。

表6.3-10 確認種一覧（両生類）

目名	科名	種名	学名	評価書	事後調査		
					秋季	春季	夏季
無尾	アマガエル	ニホンアマガエル	<i>Dryophytes japonicus</i>	○	○	○	○
	アカガエル	ニホンアカガエル	<i>Rana japonica</i>	○	○	○	○
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	<i>Zhangixalus schlegelii</i>	○			
1目	3科	3種	-	1目3科3種	2種	2種	2種
					1目2科2種		

注) 種名は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省, 2021年)に準拠した。

イ. 注目すべき種の分布、生息環境、個体数等

現地調査（評価書及び事後調査）で確認した種を対象に、表6.3-2に示した選定基準に該当する種を注目すべき種として選定した。事後調査時に注目すべき種は確認されなかった。

4) 爬虫類

ア. 確認種

事後調査において確認された爬虫類は、表6.3-11に示すとおり1目1科1種である。

表6.3-11 確認種一覧（爬虫類）

目名	科名	種名	学名	評価書	事後調査		
					秋季	春季	夏季
有鱗	ナミヘビ	シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	○	○		
1目	1科	1種	-	1目1科1種	1種	0種	0種
					1目1科1種		

注) 種名は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和3年度生物リスト」(河川環境データベース 国土交通省, 2021年)に準拠した。

イ. 注目すべき種の分布、生息環境、個体数等

現地調査（評価書及び事後調査）で確認した種を対象に、表6.3-2に示した選定基準に該当する種を注目すべき種として選定した。事後調査時に注目すべき種は確認されなかった。